

た	の	党	の	た	出	の	に	の	敢	て	区	り	ま		花	所	実		
だ	よ	、	よ	か	し	予	反	見	え	い	政	、	ず	質	川	信	で		
だ	う	な	う	も	の	算	映	出	て	た	レ	花	、	問	区	表	す		
、	に	の	に	自	内	案	さ	し	党	こ	ポ	川	第	に	長	明	。		
驚	言	に	な	分	容	に	れ	に	名	と	ー	区	1	入	に	お			
く	っ	、	っ	達	は	反	た	は	は	を	ト	長	回	る	よ	び			
ば	て	区	て	が	、	対	事	控	は	ご	、	。	定	前	び	新			
か	の	政	い	そ	予	し	業	え	花	存	次	花	例	に	年	度			
り	け	レ	ま	の	算	な	内	ま	川	知	の	区	会	な	の	予			
で	る	ポ	す	予	に	が	容	す	長	で	よ	長	な	ら	算	事			
す	、	ー	。	算	反	ら	。	が	は	す	う	は	び	に	業	業			
。	そ	ト	、	に	映	、	区	、	北	か	な	北	予	予	につ	につ			
	の	で	反	賛	さ	政	。	提	区		見	区	算	算	いて	いて			
	図	は	対	成	れ	レ	堂	案	政		出	議	審	議					
	太	、	だ	し	た	ポ	々	し	レ		し	会	議	に					
	い	実	け	現	事	ー	と	、	ポ		が	議	あ						
	神	現	が	し	業	ト	北	北	ー		書	員	た						
	経	した	実	た	が	の	区	区	ト		か	の	か						
	に	た	績	か	、	見		予	の		れ	算	か						
	は	か	の	か	あ			算	ト		か	の	あ						

め	が	か	②	解	進	た	モ	か	一	槻	高	合	て	市	昨	要	め	が	モ
に	あ	つ	総	を	に	と	ー	っ	に	槻	槻	第	良	は	年	だ	ら	、	ー
推	あ	戦	合	お	あ	伺	シ	た	込	に	市	1	か	2	の	と	れ	プ	シ
進	る	略	戦	聞	た	っ	ョ	と言	め	住	の	位	っ	0	企	考	、	ロ	ョ
員	と	的	略	き	り	っ	ン	われ	ら	も	魅	に	た	1	画	え	従	モ	ン
を	思	に	、	し	民	て	に	てい	れ	う	力	選	街	2	総	ら	来	ー	で
任	い	全	シ	ま	間	い	は	ます	た	！	を	ば	ー	年	務	れ	型	シ	推
命	ま	庁	テ	す	活	ま	、	。シ	定	ど	「	れ	ラ	大	委	ま	の	ョ	進
し	す	あ	イ	。	力	。シ	大	。シ	住	っ	あ	。	ン	手	員	。	自	ン	し
庁	。	げ	プ		の	ティ	手	。そ	促	ち	れ	。	キ	不	会		治	に	て
内	区	推	ロ		導	プロ	民	の	進	も	こ		ン	動	の	体	は	い	
に	は	進	モ		入	モ	間	高	プ	れ	れ		グ	産	民	広	く	と	
推	、	し	ー		につ	ー	企	槻	ロ	も	も		調	会	間	報	言	わ	
進	確	て	シ		いて	シ	業	市	モ	が	が		査	社	の	か	の	れ	
体	実	い	ョ		、	ョ	の	の	ー	叶	叶		、	の	大	ら	営	て	
制	に	く	ン		区	ン	協	プ	シ	う	う			阪	、	の	業	い	
を	推	必	を		の	シ	力	ロ	ョ	街	街			・		脱	戦	ま	
敷	進	要	総		見	ョ	が	モ	ン	、	高			高	却	略	略	い	
く	す	性	合			ン	あ	ー	が	コ	槻			高	が	が	求	ま	
よ	た		的			推	っ		良	ピ					必	求	す	す	

人	ま	の	ロ	は	れ	0	え	日	北	次	い	織	の	ー	例	任	の	務	う
の	す	人	ビ	1	以	万	、	本	区	に	ま	が	力	シ	え	を	中	さ	で
人	。こ	口	ジ	億	降	人	ご	の	の		す	是	を	ョ	ば	兼	に	せ	す
口	こ	は	ョ	人	、	と	存	人	人		。こ	非	導	ン	区	務	余	る	が
で	こ	9	ン	を	人	な	じ	口	口			必	入	推	長	さ	裕	と	、
も	で	0	が	割	口	り	の	が	ビ			要	す	進	直	せ	が	か	聞
、	、	0	定	る	が	人	よ	減	ジ			だ	る	室	結	る	あ	聞	く
約	大	0	め	と	少	口	う	し	ョ			と	な	な	の	な	る	い	と
4	変	万	て	予	し	の	に	は	ン			考	ど	ど	総	ど	と	て	こ
0	深	人	い	測	は	ピ	2	じ	に			え	、	を	合	、	は	お	ろ
年	刻	を	る	さ	め	ー	0	じ	つ			ま	新	設	戦	片	思	り	に
前	な	切	2	れ	、	ク	0	め	い			す	た	置	略	手	わ	ま	よ
の	問	と	0	て	、	を	8	初	て			が	な	し	室	間	れ	す	る
1	題	推	6	い	2	迎	年	め	、			、	発	、	や	な	な	。職	と
9	は	測	0	ま	0	え	に	1	伺			区	想	そ	シ	こ	い	員	、
6	、	さ	年	す	5	ま	1	億	い			の	で	こ	テ	と	中	一	そ
7	同	れ	は	。北	0	し	億	2	ま			見	で	に	ィ	は	、	人	の
年	じ	て	日	区	年	た	8	8	。そ			解	の	民	プ	な	そ	一	任
、	1	い	本	人	に	。そ	0	0				を	推	間	ロ	く	の	人	を
高	億							超				伺	進	人	モ		の	一	兼

も	①	の	う	観	観		解	傾	判	6	そ	が	た	万	1	し	②	と	い
ち	国	威	ー	光	光		を	向	る	%	の	、	数	7	4	今	決	く	
ー	が	光	」	の	施		お	が	よ	を	内	北	字	7	8	後	意	の	
モ	本	を	「	語	策		聞	予	う	超	、	区	に	7	4	の	を	か	
ノ	気	観	」	源	に		き	測	に	え	外	で	少	9	人	外	伺	北	
づ	で	察	取	は	つ		し	さ	今	て	国	成	し	人	で	国	い	区	
く	マ	す	つ	、	い		ま	れ	後	い	籍	人	驚	で	1	人	ま	に	
り	ク	る	た	中	て		す	ま	、	ま	の	を	き	す	日	の	す	求	
国	ロ	」	も	国	伺		。	す	外	し	古	迎	、	。	現	典	。	め	
家	な	こ	の	の	い			が	国	た	「	え	私	今	在	易		ら	
」	観	と	で	古	ま			、	籍	若	易	、	自	年	の	経	れ		
と	光	並	、	典	す			区	の	者	」	身	身	の	北	。	て		
並	目	ぶ	本	「	。			の	方	が	2	認	識	北	区		い		
ぶ	標	2	来	易				対	増	え	4	を	改	区	の		ま		
2	を	1	の	経				応	え	る	2	を	め	人	口		す		
1	た	世	意	（				な	続	続	名	を	ま	式	は		。		
世	て	紀	味	え				ら	け	け	で	改	し	で	3		区		
紀	戦	の	は	き				び	る	る	発	め	ま	発	4		の		
の	略	成	「																

の	観	す	④	す	新	③	見	ま	の	る	観	な	的	が	②	き	見	た	長
心	光	が	「	る	た	観	解	る	よ	「	光	い	に	始	私	た	間	。北	産
「	客	、	お	と	な	光	を	の	う	鍵	振	こ	捉	ま	自	たい	違	区	業
は	の	観	も	考	雇	振	伺	か	な	」	興	と	え	っ	身	い	え	の	と
、	ニ	光	て	え	用	興	い	？	組	に	政	肌	る	た	の	思	観	し	て
必	ー	振	な	ま	創	の	ま	大	織	し	策	で	こ	ば	感	い	光	観	観
ず	ズ	興	し	す	設	進	す	変	体	よ	を	が	と	っ	じ	ま	振	光	光
し	を	で	の	が	と	展	。〃	危	制	う	通	、	が	か	る	す	興	興	立
も	つ	大	心	、	地	で		惧	で	と	じ	区	り	こ	が	、	は	国	国
観	か	事	」	区	域	、		を	、	す	ま	の	で	と	区	の	、	に	取
光	む	な	を	の	の	若		重	者	〃	す	行	が	で	見	こ	の	取	り
客	こ	こ	視	見	活	者		し	、	女		政	、	区	解	の	国	組	み
が	と	と	て	解	性	性		い	、	性		で	展	、	を	ト	の	み	を
求	で	は	い	を	化	、		ま	高	高		開	開	、	伺	レ	の	を	始
め	「	、	る	伺	の	齡		す	者	、		さ	展	い	ま	ン	ト	を	め
て	お	あ	よ	ま	機	者		が	の	果		れ	開	ま	す	ド	を	ま	ま
い	も	く	う	す	会	の		、	意	た		て	さ	〃	〃			し	し
る	て	ま	で	。〃	が	来			識	し		、	い	政					
も	な	ま	で		到				が	て			い						
の	し	も	で		来				高	今			〃						

て、	⑥	べき	え	し	国	は	が	と	す	や	通	は	線	答	は	⑤	き	む	で
、	外	で	イン	て	際	防	求	っ	。また	商	の	こ	「	が	？	来	し	も	は
港	国	す	ン	い	化	災	め	て	。また	店	経	の	環	多	？	日	ま	の	は
区	人	°	フ	る	を	環	ら	公	。また	街	路	無	境	か	」と	外	°	で	なく
で	向	区	ラ	今	目	境	れ	施	。また	、	情	「	」	っ	、	国		は	、
は	け	の	整	、	指	の	て	設	。また	観	報	が	」	た	観	人		ない	接客
3	観	見	備	無	し	整	い	内	。また	光	や	な	」	の	光	観		で	マ
年	光	解	す	料	千	備	ま	に	。また	案	料	い	」	は	客	光		し	ナ
前	ガ	を	る	公	客	強	す	も	。また	内	金	こ	」	3	に	」		よ	ー
か	イ	お	か	衆	万	化	°	こ	。また	所	情	と	」	6	旅		う	の	向
ら	ド	聞	区	無	来	に	。また	の	。また	等	報	で	」	7	行		か	上	を
ス	ブ	き	の	線	の	も	。また	無	。また	で	の	し	」	%	中		°	を	図
マ	ッ	し	明	「	体	つ	。また	線	。また	情	入	た	」	で	困		区	を	る
ー	ク	ま	確	ニ	制	な	。また	「	。また	報	手	°	」	無	っ		の	こ	と
ト	の	す	な	ー	を	が	。また	」	。また	収	な	外	」	料	た		見	と	で
フ	発	°	方	ズ	整	り	。また	」	。また	集	ど	国	」	公	こ		解	を	濟
オ	行		針	に	え	ま	。また	」	。また	し	を	人	」	衆	と		を	お	
ン	に		を	ど	よ	す	。また	」	。また	て	駅	観	」	無	最		聞		
を	つ		示	う	う	°	。また	」	。また	い	構	光	」	回					
活	い		す	応	と		。また	」	。また	ま	内	客	」						

こと。専門家の確保がますます各方面で取り	量に相應る職員数が、絶対的に不足してくる	つ抱えています。今後増大するニーズと業務	高齢者あんしんセンターは、大きな課題を2	点として期待されていくでしょう。その反面	システム推進の中核的機能を有する重要な拠	求められていくでしょう。更に地域包括ケア	が地域全般のケアまで拡大され、機能強化が	① 高齢者あんしんセンターは、今後その役割	2 箇所整備する事について。	はじめに、高齢者あんしんセンターを新たに	(2) 北区の包括ケアについて伺います。			作成しないことを望み区の見解を伺います。	覚していたただき、ありきたりの観光ガイドを	北区は観光振興の後発組です。そのことを自	プリも開発しています。	布しています。また、港区は、まち歩きのア	が展開される観光マップを浜松町駅などで配	用し4カ国語に対応した観光情報の動画紹介
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------	----------------------	----------------------	--	--	----------------------	-----------------------	----------------------	-------------	----------------------	----------------------	----------------------

把	高	決	ス	域	サ	へ	高	る	が	反	談	流	地	タ	②	る	に	で	合
握	齡	し	に	に	ー	の	齡	よ	「	対	に	を	域	ー	次	の	に	す	い
し	者	て	差	よ	ビ	フ	者	う	ど	に	「	良	の	に	に	か	。 以	に	
、	あ	好	が	っ	ス	ツ	あ	に	う	、	丁	く	祭	つ	、	、	上	なり	
保	ん	ま	出	っ	の	ト	ん	な	も	職	寧	図	や	い	私	北	の	、	
險	し	し	る	て	質	ワ	し	り	？	員	に	っ	運	て	ど	区	2	人	
者	ん	く	な	高	に	ー	ん	ま	」	の	乗	て	動	「	も	の	点	材	
の	セ	な	は	齡	も	ク	セ	し	と	対	っ	い	会	こ	の	の	課	確	
指	ン	い	、	者	影	の	ン	た	か	応	て	る	に	こ	の	題	保	保	
導	タ	状	地	あ	響	違	タ	。 ど	、	が	く	よ	こ	こ	の	を	ど	が	
強	ー	況	域	ん	が	い	ー	う	様	「	れ	「	顔	の	高	お	う	よ	
化	の	で	の	ん	出	あ	の	も	々	雑	て	と	出	あ	齡	聞	克	り	
と	抱	す	利	セ	て	り	相	、	な	だ	い	か	し	ん	者	し	難	難	
体	え	。 今	用	ン	る	、	談	地	声	ね	る	、	て	ん	あ	ま	し	し	
制	て	後	者	タ	よ	提	対	域	も	「	「	住	地	セ	ん	す	う	く	
の	い	各	に	ー	う	供	応	に	聞	と	と	民	域	ン	し	。 新	克	な	
充	る	地	と	の	で	さ	力	よ	こ	か	か	か	と	タ	ん	た	服	る	
実	課	域	っ	サ	す	れ	や	っ	え	、	、	の	の	ー	ン	。 新	し	こ	
を	題	の	て	ー	。 地	る	現	て	て	力	そ	相	交	は	セ	た	、	と	
図	を			ビ			場	く	く	量	の				ン			と	

者	及	花	づ	進	つ	域	花	に	高		遂	る	包	ま	た	率	③	期	っ
が	さ	川	く	●	い	社	川	っ	齢		行	重	括	で	か	直	始	待	て
元	れ	区	り	高	て	会	区	っ	者		で	要	ケ	も	ら	な	ま	し	い
気	ま	長	の	齢	●	で	長	っ	の		き	な	ア	あ	ー	感	っ	、	た
に	し	は	支	者	高	生	は	っ	就		ツ	シ	り	や	想	た	区	だ	
い	た	「	援	の	齢	き	所	っ	労		る	ー	ス	ま	っ	を	の	き	たい
き	。私	北	の	活	者	生	信	っ	と		よ	ル	テ	せ	て	述	見	たい	。保
き	たち	区	心	力	い	き	表	っ	生		う	で	ム	ん	い	べ	解	い	。保
と	公	モ	点	を	いき	と	明	っ	活		北	。地	構	が	る	と	を	伺	。保
活	明	デル	を	生	いき	活	で	っ	躍		区	。地	築	い	「	地	い	ま	。保
躍	党	」	あ	か	き	す	、	っ	る		の	域	の	が	厚	域	ま	す	。保
で	区	を	げ	し	サ	仕	高	っ	組		見	ケ	成	い	労	ケ	め	。保	者
き	議	検	ら	た	ポ	み	齢	っ	づ		解	ア	否	が	省	ア	ま	。保	の
る	団	討	れ	就	ー	組	者	っ	く		を	会	の	が	が	会	せ	。保	レ
地	は	す	、	労	タ	み	が	っ	り		お	議	鍵	め	議	議	ん	。保	ベル
域	、	る	そ	●	ー	づ	引	っ	の		聞	の	を	ま	に	につ	い	。保	ア
社	高	事	れ	いき	制	く	き	っ	北		き	目	握	せ	つ	いて	、	。保	ッ
会	齢	に	に	がい	度	り	地	っ	区		し	的	っ	。言	、	、	、	。保	プ
の		言		い	の	に		っ	モ		ま	が	て	う				。保	も

国	0	③	対	今	助	ポ	護	ら	今	ラ	0	名	1	北	制	明	②	す	ど
会	時	シ	応	、	互	ラ	予	れ	後	ン	名	と	制	区	度	党	「	。	の
に	間	ル	を	挙	助	ン	防	る	、	テ	以	挙	度	の	区	区	高		よ
提	か	バ	お	げ	の	テ	事	と	活	ィ	下	げ	の	の	議	議	齡		う
出	ら		考	た	活	ィ	業	こ	動	ア	で	て	登	合	団	者	者		に
さ	4	人	え	2	用	ア	・	ろ	拠	の	活	い	録	戦	が	者	い		思
れ	0	材	な	点	が	ポ	日	で	点	活	動	ま	者	略	提	を	き		わ
ま	時	セ	の	に	言	イ	常	。	や	内	拠	が	数	で	案	平	い		れ
す	間	ン	か	つ	わ	ン	生	ま	内	容	点	、	を	「	し	成	き		ま
。	に	タ	、	い	れ	ト	活	た	に	っ	は	現	を	高	実	3	サ		す
公	拡		区	て	て	を	支	、	っ	い	特	在	実	齡	施	2	ポ		か
明	大	の	の	、	い	組	援	厚	い	て	養	の	拡	者	大	年	ー		。
党	さ	就	見	北	ま	み	総	労	も	っ	ホ	登	を	い	を	に	タ		見
区	れ	労	解	区	。	込	合	省	拡	さ	ー	録	求	き	め	1	ー		解
議	る	時	を	は		んだ	事	が	充	れ	ム	者	実	い	現	5	制		を
団	法	間	伺	ど		地	業	示	が	い	が	数	し	き	た	0	度		お
は	案	が	い	の		域	の	した	求	ま	中	は	た	サ	実	1	「		聞
シ	が	週	ま	よ		の	中	た	め	す	心	2	現	ポ	現	0	は		き
ル	、	2	す	う		の	で	介		。	で	0	した	ー	し	0	、		し
バ	今		。	な		自	、				ボ	0	た	タ	ま		公		ま

者	特	て	今	齢	金	そ	し	い	昨	低	次	し	拡	シ	事	業	今	躍	一
が	に	7	後	者	だ	の	た	ー	年	所	に	、	大	ル	が	後	社	人	
増	、	6	2	の	け	背	言	と	の	得		今	に	バ	期	、	会	材	
え	北	2	0	社	で	景	葉	と	流	の		後	つ	ー	待	実	セ		
、	区	万	年	会	は	に	が	も	行	単		の	い	人	現	ン			
安	で	人	、	社	生	は	ノ	に	語	身		対	て	材	場	タ			
心	問	と	単	的	活	、	ミ	「	大	高		応	、	セ	で	ー			
し	題	の	身	な	で	真	ネ	下	賞	者		を	北	ン	の	の	の	機	
て	な	予	高	不	き	面	ー	流	候	の		伺	区	タ	人	手	訴	能	
暮	の	測	齡	安	な	目	ト	老	補	住		い	の	ー	不	慮	え	拡	
ら	は	が	者	が	い	に	さ	人	5	居		ま	前	の	足	し	続	大	
せ	、	あ	が	あ	老	納	れ	「	0	問		す	向	機	の	な	け	と	
る	低	り	1	よ	後	付	話	と	の	題		。	き	能	解	が	て	元	
住	所	ま	6	う	の	し	題	な	言	につ			な	拡	消	ら	参	気	
居	得	す	2	に	不	て	と	り	葉	いて			取	大	につ	り	ま	高	
の	の	。	万	思	安	も	な	ま	に	「			組	と	な	し	した	齡	
確	単		人	わ	と	、	り	し	爆	爆			み	就	な	た	。	者	
保	身		増	れ	単	国	ま	た	買	買			を	労	が			の	
が	高		加	ま	身	民	した	た					期	時	る			活	
困	齡		し	す	高	年							待	間					

。

。

相	師	セ	日	表	代	支	た	昨	北		区	低	「	る	ム	東	を	者	難
談	、	ン	本	さ	包	援	る	年	区		の	所	都	有	」	京	さ	の	に
が	ソ	タ	版	れ	括	を	ま	、	版		対	得	市	力	が	都	せ	住	な
出	ー	ー	ネ	ま	支	提	で	厚	ネ		応	の	型	な	低	都	せ	居	っ
来	シ	は	ウ	ま	援	供	の	労	ウ		を	単	軽	対	所	が	な	問	て
る	ヤ	は	ボ	し	セ	す	様	省	ボ		伺	身	費	策	得	推	い	題	く
施	ル	セ	ラ	た	ン	る	々	か	ラ		い	高	老	の	進	し	多	は	る
設	ワ	ン	で	。	ター	ワ	な	ら	に		ま	齡	人	ひ	て	て	様	在	こ
で	ー	ター	あ		ー	ン	ニ	、	つ		す	者	ホ	と	い	い	な	宅	と
妊	カ	内	る		の	ス	ー	妊	い		。	の	ー	つ	る	都	提	ケ	で
娠	ー	に	「		整	ト	ズ	娠	て			住	ム	と	市	供	ア	す	。
か	等	保	子		備	ッ	に	期	、			居	」	思	型	体	の	基	低
ら	を	健	育		を	プ	対	か	伺			対	を	い	軽	制	本	本	所
出	配	師	て		図	拠	し	ら	い			策	誘	ま	費	が	で	得	の
産	置	や	世		る	点	て	子	ま			につ	致	す	老	必	あ	単	単
、	し	助	代		こ	「	総	育	す			いて	さ	が	人	要	り	身	身
子	、	産	包		と	子	合	て	。			、	れ	、	ホ	あ	、	高	高
育	幅		括		が	育	的	期				の	る	孤	ー	り	立	齡	齡
て	広		支		発	て	相	に				か	の	立		ま			
ま	い		援			世	談	わ				北	か	す		す			

さ	例	活	①	地	ど	施	の	公	つ	(4)	次	ま	是	田	民	が	と	れ	⑤
れ	を	用	滝	域	の	設	時	共	い	ス	に	す	非	区	と	る	を	ま	先
た	拳	を	野	の	よ	へ	代	施	て	ス		が	も	の	無	こ	考	ま	月
旧	げ	待	川	課	う	の	か	設		ト		、	含	動	用	と	し	、	大
堀	れ	っ	東	題	に	住	ら	が		ッ		区	め	向	な	え	た	。北	田
船	ば	て	地	に	公	民	ア	集		ク		の	法	な	予	と	区	区	で
児	、	い	区	な	共	ニ	ン	中		マ		見	整	ど	想	、	は	、	民
童	栄	る	・	っ	の	ー	バ	的		ネ		解	備	を	さ	、	交	泊	を
室	町	公	堀	て	イ	ズ	ラ	に		ジ		を	を	見	れ	通	至	認	め
・	こ	施	船	い	ン	も	ン	建		メ		伺	整	極	北	便	な	立	地
昭	ども	設	地	ま	フ	多	ス	設		ン		い	え	め	区	可	能	性	が
和	セ	が	区	す	ラ	様	に	さ		と		ま	て	な	に	で	き	る	可
町	ン	点	に	。	機	化	人	れ		地		す	い	が	お	可	能	性	が
児	タ	在	は		能	す	口	た		域		。	く	ら	い	能	性	が	広
童	ー	し	、		を	中	が	イン		施			べ	、	て	可	能	性	が
室	に	て	今		守	で	減	フ		設			き	、	も	能	性	が	施
な	統	い	後		る	、	り	ラ		の			だ	地	、	可	能	性	が
ら	統	ま	の		か	今	、	整		活			と	域	地	可	能	性	が
び	廃	す	有		が	後	公	備		用			考	住	域	が	広	行	
に	合		効		、		共			に			え	の	大	こ	さ	行	さ

い	③	伺	を	護		ン	た	た	こ	②	方	既	当	マ	中	ね	ま	稚	平
て	次	い	求	岸	是	カ	下	下	の	隅	針	存	に	ネ	で	れ	す	園	成
お	に	ま	め	も	非	フ	流	流	工	田	と	ス	そ	ジ	す	ば	。そ	、	2
聞	、	す	め	親	、	エ	部	部	事	川	見	ト	ん	メ	。と	、	の	そ	9
き	首	。°	ま	水	豊	の	区	区	は	テ	解	ク	な	ン	。°	有	し	年	
し	都		す	テ	島	店	間	間	護	ラ	を	の	対	ト	公	効	て	度	
ま	高		が	ラ	4	舗	で	で	岸	ス	お	マ	応	施	利	旧	か	から	
す	速		、	ス	丁	展	は	遊	の	護	聞	ネ	で	設	用	堀	ら	休	
。	道		東	護	目	開	遊	歩	耐	岸	き	ジ	い	の	に	船	休	園	
	路		京	岸	か	が	道	道	震	の	し	メ	い	で	つ	東	園	が	
	王		都	と	ら	計	に	も	工	工	ま	ン	の	し	い	ふ	な	決	
	子		へ	し	堀	画	なる	なる	事	事	す	に	で	よ	て	れ	あ	ま	
	線		の	整	船	さ	親	親	で	が	。	つ	う	う	あ	い	い	っ	
	高		対	備	3	れ	水	水	、	進		い	か	？	館	な	た	ほ	
	架		と	さ	丁	て	性	性	工	ん		て			ど	が	ほ	り	
	下		区	れ	目	い	を	を	事	で		、			が	あ	り	ふ	
	利		の	る	の	ま	も	も	了	い		区			あ	り	な	幼	
	用		見	こ	区	す			し	ま		の			り				
	に		解	と	間	。				す									
	つ		を		の					。									

なく なり まし た。 また 、工 事の 申し 請に は土 地	費 の1 0% を申 請者 が負 担を しな くは なら	場 合、 平成 26年 7月 より 区が 算定 した 工事	④私 道私 下水 など の生 活イン フラ を整 備す る	の 見解 を求 めま す。	最 後、 生活 イン フラ の維 持管 理に ついで 、区		答 えを 求め ます 。	し てい くべ きだ と考 えま すが 、区 の明 解な お	時 代の 要請 にかな った 高架 下利 用を 北区 は示	行 う動 機が なくな って いる 状況 です 。今 後、	民 間斎 場も 建設 される など 、斎 場運 営を 公が	核 家族 化に 伴い 葬儀 の形 態も 変化 し、 地域 に	設 につ いて 、計 画時 から 既に 十数 年が 経過 し	特 に、 堀船 2丁 目の 高架 下利 用計 画の 斎場 建	で いま せん 。	の 高速 道路 高架 下の 具体 的利 用が 少し も進 ん	で すが 、堀 船1 丁目 から 堀船 3丁 目に かけ て	正 式に 首都 高速 道路 王子 線は 完成 を見 たわ け	昨 年3 月に 王子 南出 入り 口の 利用 が開 始さ れ
---	---	--	--	---------------------------	--	--	--------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--------------------	--	--	--	--

